

ヒト T 細胞白血病ウイルス-1 型 (HTLV-1) 母子感染予防のための保健指導の標準化に関する研究 (研究代表者: 森内浩幸 長崎大学大学院医師薬学総合研究科教授)

〈平成 22 年度厚生労働科学特別研究〉

**背景** HTLV-1 母子感染予防対策には、キャリアの頻度の地域差、検査方法の問題点 (スクリーニング検査における偽陽性、確認検査における判定保留例、PCR 検査の標準化や保険適用化がなされていないこと等)、唯一確実な予防法が断乳であるがその効果は完全ではないこと、等大きなジレンマがある (右図)。そうした中で HTLV-1 母子感染予防対策が全国展開で実施されることになり、全国的に統一された適切な保健指導を行うことが必要となった。

**HTLV-1母子感染対策のジレンマ**

- HTLV-1の母子感染は主に母乳を介して起こる。
  - そうしてキャリアとなった人の一部は、将来ATLを発症する。
  - ATLは極めて予後不良の白血病である。
  - 現時点でキャリアとなった人がATLを発症せずに済む方法は知られていない。
  - ATLを防ぐ唯一の方法は母乳を介した感染を防ぐことである。
- ↑↓ 対応を誤ると混乱を招く!
- 母乳は本来母子にとって良いものである。
  - 母乳を与えたからといって、子どもが感染する可能性は2割程度である。
  - 逆に、母乳を完全に遮断した場合も、感染はゼロにはならない(2~3%残る)。
  - 妊婦のスクリーニングでキャリアであることが判明した場合、HIVでは本人にもメリットがあるが、HTLVの場合にはない(逆に精神的にダメージを与える恐れすらある)。
  - キャリアの分布に大きな偏りがあり、全国統一の対応が困難(→ただし、今はキャリアの分布は拡散傾向にある!)
  - 非流行地においては、現在の抗体スクリーニング検査法は偽陽性が多く、また確認検査では判定保留例が多い。
  - さらにPCR検査法も、HTLVの場合は標準化されておらず保険適用もない。

**研究目的** 本研究の目的は、

- HTLV-1 母子感染予防に携わる母子保健医療従事者のためのマニュアルを作成すること
  - 全国全ての都道府県の母子保健担当者を招集しての講習会を開催すること
  - 母子感染の啓蒙のためのリーフレット (母子手帳に挟むもの) を作成し配布すること
- 以上により、HTLV-1 母子感染予防対策が全国で混乱なく開始運用されることを目指す。

**主な研究成果**

- マニュアルを作成し、下記講習会の配布資料とともに、全国の分娩機関、保健所、大学の産婦人科学および小児科学教室、諸学会へ発送した。マニュアルに示した妊婦のスクリーニング検査実施からキャリア妊婦から生まれた子どもの追跡調査に至るまでの大まかな流れは右図のとおり。
- 平成 23 年 3 月、東京、大阪において、全国都道府県からの代表者 (都道府県・政令指定都市・中核市・保健所設置市・特別区の母子保健担当者、都道府県医師会・日本産婦人科医会の会員である医師) に対し、HTLV-1 母子感染予防対策講習会を開催した。
- 母子健康手帳に挟むリーフレットを作成し全国の市町村に配布して、妊娠届出者に手渡すようにした。

